

町と日本郵便(株)が包括的連携協定を締結

互いの連携強化により地方創生の推進や住民サービスの向上を図る目的で12月1日(水)、町と日本郵便(株)が包括的連携協定の締結式を行いました。

今回の協定は、同社からの提案がきっかけで締結されたもの。安心・安全な暮らしの実現や地域経済活性化、未来を担う子どもの育成など、5項目に関する事項の連携が確認されました。

松本町長は、「郵便局の機動力、住民との密接な関係性という強みは、今回の協定にとつてとても心強い。より良い町にするようともに連携し手を取りあって活動したい」と話しました。また、田野浦郵便局の上岡尚哉局長は、「町内



町長(左)と上岡田野浦郵便局長(右)

には6つの郵便局があるので、それぞれの地域の特性を活かしながら町との協力ができれば」と話しました。

第59回大方の秋まつり

11月13日(土)・14日(日)、「第59回大方の秋まつり」が土佐西南大規模公園体育館で開催されました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、例年行われていたステージ発表などは行わず、作品展示のみでの開催でしたが、来場者は、町内の保育園児や小中学生の書道や絵画などの展示や、一般の方による写真、生け花、陶芸などの作品を楽しみました。

集まった作品は、町内外から計990点。町内の保育所、小中学校からは524点の作品が集まりました。

来場した多田宏美さんは、「世界観がすごかった。それぞれの作品に個性があつて、とても良かった」と話しました。

また、同イベントにボランティアとして参加した大方中学校元気の金子美空さんは、「思っていた



展示を楽しむ来場者

たよりたくさんの人が来てくれて驚いた。ボランティアをしてみて、裏方の大変さがわかった」と話しました。

上川マルシェ

11月27日(土)、「上川口マルシェ」が上川口小学校で開催されました。

児童が中心となり運営する同イベントは、今年で3回目を迎え、「笑顔で元気に」をテーマに、地域を盛り上げ、たくさんの人と交流を深めたいという思いで開催されました。

マルシェでは、出店やワークショップのほか、同校の児童による出店も行われ、低学年は野菜、高学年はパンなどの既製品や自作のミサンガなどを販売しました。

来場した室井かすみさんは、「どれも安く綺麗だったし、お店もたくさんあつて楽しかった。アットホームな雰囲気もあつて安心して楽しめた」と話しました。

同校6年生の島田美優さんは、「始まったとたんにお客さんがたくさん来て大変だったけど、笑顔



商品を販売する児童

で対応できたとし、お客さんも笑顔になってくれて嬉しかったです」と話しました。

蜷川オリンピックピック2021

11月28日(日)、旧蜷川小学校で「蜷川オリンピックピック2021」が開催されました。

高知大学地域協働学部の学生13名により企画された同大会は、地区運動会を復活させ、多世代交流を深め、地域を盛り上げたいという思いで開催されました。

参加者らは、ピンポン玉運びやボッチャ、縄ない(※)などの競技、蜷川クイズや紐引き、綱引きなどを楽しみました。

地域協働学部3年生の秋田桜さんと志村一輝さんは、「運動会は20年振りのため、模索しながら準備した。参加してくれなかったらという不安もあつたが、多くの人が参加してくれて、子どもたちが実感してくれたり予想外の良いことも起こって、盛り上がり楽しいオリンピックになった。後輩に引き継いで、来年も開催できれば」と話しました。



縄ないを行う参加者と大学生

※縄ない:
2本の藁束を
巻き合わせて
1本の縄
にすること。